12月4日～10日は『人権週間』です

子どもたちのメッセージ

～播磨町小・中学生人権作文・人権詩および播磨町幼稚園人権カットの紹介～

▼問合せ　生涯学習グループ　☎079（437）0565

「海辺のゴミ拾い」

播磨中学校 1年　角野 光

夏休みになった。いつものように、母がぼくを誘う。

「光、そろそろお願いしようかな。」

「うん。」

と、ぼくは答える。本当は、暑くて面倒くさくて、やりたい事ではないけれど、ぼくがしなかったら、母が大変だからいつも手伝うことにしている。

「今回は、今回こそは、一時間でいいから。」

「うん。」

気を使うように母は言うけれど、今まで一時間で終わったことなんか一回もない。だからといって、少し超えるくらいかというとそんなこともない。だいたいいつも、三～五時間はかかってしまう。

何を手伝うのかというと、浜辺のゴミ拾いだ。

ぼくの家は、釣り船屋をしている。ぼくの住んでいる播磨町の港から、父が毎日船を出している。船の目の前の広場には、船に乗るお客さんが車を止められるように、駐車場になっている。でもそこは、ぼくの家の船に乗るお客さんだけではなくて、他の船に乗るお客さんや、岸壁から釣りをする人、散歩をする人も通るし、ただ海を見に来た人もいる。時々、仕事中のおじさんが、一休みしていることもある。赤ちゃんもいるし、休みの日には子どももいるし、おじいちゃんおばあちゃんまで年齢層は厚い。

しかし、その中の一部の人が、ゴミを残していく。それが、積もり積もって、あるラインまで来ると、ぼくの出番だ。

普段は、お客さんの船のゴミを片付けるついでに、父と母が、大まかに拾っているらしいが、ぼくが呼ばれる頃はいつも、ゴミが目立つくらい散乱している。漁協で「浜掃除」と、決められた日もあるそうだが、母は、

「ゴミが落ちていると、ゴミをほかしてもいいんだ…と思って、またゴミを置いていく人が増えるんよ。だから、ゴミが目立つ前に片付けようと思ってるねん。」と言う。それが本当かどうかはわからないけど、結局ゴミは片付けても片付けても増えるから、そんなものかもしれない。

母は、「ゴミを拾うことがいやなわけじゃなくて、一番いやなのは、捨てているゴミを見たら、捨てた人の考えていることがわかってしまうのが嫌い。」といつも言う。

例えば、すみっこや溝に落ちているゴミは、きっと捨てることに罪悪感があったんだろうと思う。だったら、持って帰って捨てたらいいのに。

また、空き缶・ペットボトル・紙類がひとかたまりになっているゴミ。分別が面倒くさかったのか？

花火とジュース。楽しい時間だったんだろう。だけど、花火は危ないから、水につけなくては…。

釣りのときの魚のえさの袋。岸壁から釣りをしたんだろう。だけど、釣った魚はもって帰っても残ったえさの袋は臭いからそのまま置いていこう…って感じだと思う。

そんな人たちは、置いていったゴミがどうなるかなんて、考えていないんだろう。土に帰るとでも思うのだろうか。

そんな人たちが置いていったゴミを、ぼくは時々母と拾うのだ。慣れたもので、もう最初から2～3枚の袋を持って、分別しながら拾っていく。缶、ビン、ペットボトル、紙類のゴミ、雑誌なども捨てられていることもある。結局は、草の中とか見えないところに捨てているゴミが多いから、袋はすぐに一杯になって持ちきれないことになる。

そんなことをしていたら5時間ぐらいすぐに経っている。

それぞれ、浜で過ごす人たちの意識が少しずつ変わるだけで、ぼくの5時間を違うことに使える気がする。何も大変なことをしてほしいわけではない。みんな、自分の家では分別しながらゴミはゴミ箱に捨てているはずだ。その気持ちを、どこに行っても持ち続けてほしい。そして、こんなことを言っているぼくもどこに行っても、その場所で楽しんでいる人や生活している人、お仕事をしている人の気持ちを考えて、気分の悪くなるようなゴミの捨て方をしないように気をつけようと思う。

「お友達と砂場でお山と
おだんごをつくったよ！」
播磨幼稚園 4歳児
あそう れお

「妹と車イス」

播磨小学校 5年　池上 侑里

昨年の六月、二年生の妹が、県立子ども病院に一ヵ月入院しました。健康だった妹が、右足がいたいと泣き出したのは、一月ぐらいでした。その後、右足と左足の長さに5センチも差ができ、右足が前のように開かなくなりました。いたみもひどく、夜中に泣きさけんでいました。妹が入院してから、私はおばあちゃんの家で過ごしました。お母さんが妹のそばについていたからです。私もさみしかったけど、妹のつらさを思ってがまんしました。

妹は二回手術をしました。血しゅができていたため、足が動かなくなっていたことがわかりました。そこに血しゅができた例は、世界でもほとんどなく、めずらしい病気と言われました。でも、手術で取りのぞく事ができ、一ヵ月間、けん引というおもりをつけた後、無事に退院できました。

妹が入院中、土日に何度か外はくが許されて、車イスで家に帰ってきました。右足に体重をかけることをきん止されていたからです。そんな時、家族で買い物や外食に行くと、車イスに乗っている妹をみんながジロジロ見てきました。その目は、「かわいそうに…。」とか「あの子、何の病気やろ？」と言っているように私には見えました。

妹が帰ってきて、うれしかった私も、みんなのジロジロ見てくる視線が、たまらなくイヤでした。私の妹は、一ヵ月間だけの車イス生活でしたが、一生車イスの人は、毎日ずっとこんな思いをしているんだなぁ、ということに気が付きました。

そして、車イスをおして思ったのは、歩いているだけでは気付かない、たくさんの不自由がある、ということです。

例えば、エレベーターが無かったり、あってもせまかったり、乗ろうとしたら人がいっぱいで入れなかったり、すくのを待って何回もエレベーターを見送らなければならなかったりしました。それから、ちゅう車場がせまくて、車イスの乗せ下ろしが大変でした。また、車イスはとっても重くて、大人でも、一人で持ち上げるのは、すごく重そうでした。レストランでは、食べたい店に入れなかったり、入ってもテーブルがせまかったり、車イスと高さが合わなかったりしました。階段しかないため、すごく遠回りをしたこともありました。

「バリアフリーな社会」とよく言うけれど、実際に経験してみると、まだまだ、たくさんの不自由なことがありました。今回の経験を通して、これからは、困っている人がいたら、その人の気持ちになって、さりげなく助けてあげられる人になりたいなぁと思いました。

さいわい、妹の足は治ったけれど、世の中には、重い病気で苦しんでいる子どもが、たくさんいることがわかりました。そのお手伝いができる仕事につけたらうれしいです。そして、もっとバリアフリーな社会を作っていけるような大人になりたいと思いました。

「せみとりだいすき!!」
蓮池幼稚園 5歳児
大江 巧海

「ふつう」

播磨南中学校 3年　伊藤 慎太郎

あなたの「ふつう」は普通ですか
誰かを傷つける「ふつう」ではありませんか
誰かを苦しめる「ふつう」ではありませんか
あなたの今の行動は正しいですか
過去に間違いをしていませんか
間違いがあるなら、「ふつう」を変えてください
物を拾ってあげる「ふつう」
人を励ます「ふつう」
苦しんでる人を助ける「ふつう」
なにごとにも頑張る「ふつう」
平等に接する「ふつう」
人の役に立つ「ふつう」
心配をかけない「ふつう」
迷惑をかけない「ふつう」
気づけば回りには人がいます
「ふつう」は優しさに変わります

「伝えたいこと」

蓮池小学校 5年　山本 侑吾

お父さん
お母さん
お姉ちゃん
おじいちゃん
おばあちゃん
友達
みんなぼくの大切な人たち
「おはよう」と言うと
「おはよう」と返ってくる
笑い合ったり
ときどきけんかをしたり
いろんなことがあるけれど
みんなぼくの大切な人たち
みんな生まれてきてくれて
ありがとう
ぼくに命をうないでくれて
ありがとう
ぼくと出会ってくれて
ありがとう
そして自分に
ありがとう

「おとうさんと
おとうとだいすき!!」
播磨西幼稚園 3歳児
うらた ひな

絆を深めた自然学校

▲カッターで　力を合わせて　こいでいく

播磨西小学校 ５年生

待ちに待った自然学校。西小5年生は、9月3日からの5日間、家族の元を離れて南あわじ市の青少年交流の家で過ごしました。まだまだ夏の暑さの残る天気の中、楽しみと不安な気持ちを胸にバスに乗り込みました。

淡路島では、震災記念館の見学、カッター、B&G海洋センターでのカヌー、セールカッター、バナナボート、イングランドの丘でのパン作り、楽焼きの絵付け、ディスクゴルフなどを体験しました。友達との生活に慣れ、協力し、励まし合い、絆を深めることができました。最後の夜のキャンドルサービスでは、お世話になったリーダーとの別れや楽しかった日々を思い、友情の灯火を手に涙々の夜となりました。

「海の風　ヨットの上では　見えるんだ」
「楽しいよ　バナナボートで　おっとっと」

がんばってます 部活動

▲女子テニス部は団体優勝しました

播磨南中学校

3年生が引退し、どの部も新チームになりました。先輩より良いチームを作ろうと、この新人戦に備えてきました。夏休みから暑さにも負けずに一生懸命練習に取り組みました。

まずは陸上部。東播から県へと駒を進め、県新人大会では、上位入賞者続出。男子総合優勝というすばらしい成績を収めることができました。続いて、他の運動部。郡新人戦ではどの部も優勝目指して精一杯のプレーを繰りひろげました。女子テニス部は団体優勝。他の部もあと一歩のところで負けはしましたが、悔いのない試合をすることができました。

そして、3年生の梶谷達郎君がジュニアオリンピック円盤投げで、日本一の栄冠に輝きました。播磨南中学校陸上部7回目の日本一です。これからも毎日の練習で努力を積み重ねていきますので、今後の活動に応援よろしくお願いいたします。

体育祭

▲皆さんのおかげで大成功でした

播磨南高等学校

今年は連日の猛暑で、9月に入っても一向に気温は下がる気配もなく、熱中症で倒れる人が続出するのではないかと、あれこれ気を病み、心配のつきない体育祭でした。

私たち生徒会も大きな行事にあたふたしましたが、集合・招集にも機敏に対応していただき、随所に皆さんの協力をいただいたおかげで競技も盛り上がり、無事に体育祭を終了することができました。感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

あと残りの学校行事やボランティア活動にも精一杯頑張りたいと思います。

播磨南高等学校のきゃんぱすだよりは、生徒会が執筆しています。

見て！食べて！神戸新発見！

▲南京町で買い物体験をしました

播磨南小学校

4年生は、社会科で兵庫県を学習しています。そこで10月8日の秋の遠足で、県庁所在地の神戸へ行ってきました。

まず、子どもたちは神戸港から船に乗りました。気持ちいい風に吹かれながら、行き交う様々な船に興味津々でした。海洋博物館では、実際に見た船の造りが模型で細かく再現されていたので、しっかりと見学することができました。

最後に行った南京町では、一人300円を持ち、買い物体験をしました。活気ある店員さんとのふれあいや、じっくりと商品を見て買う姿、友達とお金を出し合って、満足そうに食べる様子がとても印象的でした。

神戸市は、様々な国の方々との交流がある大きな街だということを、子どもたちが実感した一日でした。

秋の実り！豊作！！

▲稲刈り!!

播磨幼稚園

6月上旬、幼稚園に小さな田んぼができました。大きい組が親指と人さし指と中指の3本を使い、まだ青くて小さな稲をひとつひとつ植えました。梅雨が過ぎて暑い夏が終わる頃、小さく実ってきた稲穂が鳥に食べられないようにと、カカシやカラスをつくり立てました。みごと鳥に食べられることなく秋を迎え、ふっくら大きな稲穂が実りました。

いよいよ、楽しみにしていた稲刈りです！「早く食べたいな～」「おにぎりができるかな～」と言いながら稲刈りをする子どもたち。1粒だけ皮をむいて食べてみました。口にしたとき「甘い！」「お米の味がする！」と1粒の味をかみしめていました。この後も、手作業で皮をむき玄米や白米にし、もちろん幼稚園で炊いていただきます。なにげなく食べていたお米が、食べるまでに〝こんな大変だったなんて！〟

コスモス畑きれかったよ！

▲コスモス畑で大はしゃぎ

播磨西幼稚園 年長児

「コスモス畑に遊びにおいで」と地域の方に誘っていただき、年長児はコスモス畑にでかけました。「コスモス畑たのしみ！」と元気に出発です。

子どもたちがすっぽり隠れてしまうほどのたくさんの背の高いコスモスを見て、「ぼくよりおおきい！」「こんないっぱいのコスモス初めて見た！」「うわぁ、きれい！」とうれしい悲鳴が聞こえてきます。「バッタもコスモス見にきたんかな」とバッタやチョウを見つけたり、自分たちで摘んだコスモスを花束にしてくださる地域の方を〝お花名人さん〟と呼んだりしてコスモス畑で大はしゃぎ。思い切り遊んで大満足の子どもたちはコスモスの花束を片手に、にこにこ笑顔で幼稚園に帰りました。